

ウエストベルト落とし縫いで発生する問題解決法

# ウエストベルトの落とし縫い工程で 縫い外れ、縫い込み、ねじれなど不良の解決法

## アタッチメントの活用で不良を削減

### 一般的な縫製方法

スカートやスラックスのベルト落とし縫い工程は一般的に普通縫いミシンで落とし縫い押えを利用して縫製していますが、ステッチの裏側が途中で外れたり、縫い込んでしまってもわかりません。このため、不良が多く発生することとなります。

なお、落とし縫い押えには右、左とありますが、通常は左を利用していると思われます(図1)。

### 改善方法

ウエストベルトの落とし縫い工程には専用開発されたアタッチメントがあります。これは上記のような通常の縫製方法とは逆に、ベルトの端をガイドして裏側から縫うようにしたものです(図2)。こうすることにより、裏側に出やすい不良を防止す

ることが出来ます。このアタッチメントではベルトを斜めに起こすとともに案内棒を利用することでウエストベルトの落とし縫い位置を確実に拾うようにしています。

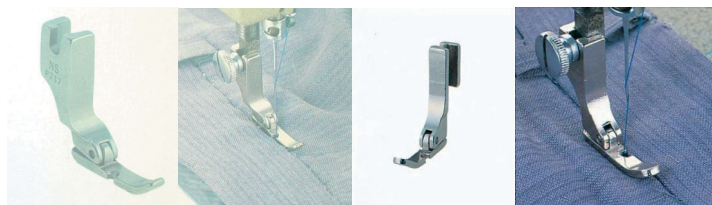
また、表裏の縫いずれを防ぐためには上下送りミシンの利用が効果的です(図3)。上送り、下送りを落とし縫いに適したゲージセット(品番MAQ-04900-BA0A、図4)があります。JUKIのベルト落とし縫い用アタッチメントは上下送りミシンDLU-5490用に開発されたもので専用の押え、送り歯、ガイドなどのセットが用意されており、以下のような特長を持っています。

下送りの歯は斜めのものを使い、ベルトをガイドに押さえつける役割をしています。

生地ガイドは布の厚さにより3mm、5mm、7mmの3種類があります(図5)。

ベルトの幅は25mmから35mmまで調整可能です。

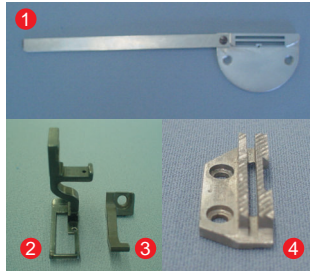
図1 落とし縫い押え



落とし縫い押え右

落とし縫い押え左

図4 ゲージセット



針板  
B1109-490-W00  
押え  
B542-491-WA0  
上送り歯  
B3026-491-W00  
送り歯  
B1613-490-W00

図2 縫仕様

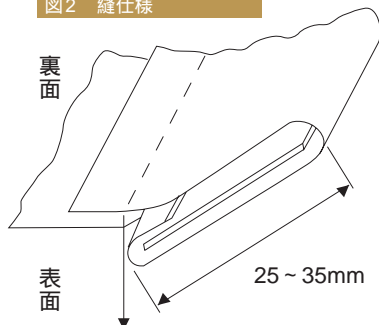


図3 上下送り糸切りミシン



図5 生地ガイド

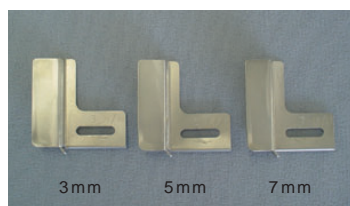


図6 ミシンヘセット



実際にベルト落としアタッチメントを利用した縫製方法は図6のようになります。

また、個別のパーツが必要な場合は図4の各パーツ品番で  
ご注文ください。(高橋賢二)

## アタッチメント製作入門

### 巻き具購入時のワンポイントアドバイス

今回はアタッチメントのまとめとして、一般的な分類と購入する際のワンポイントアドバイスです。

フェラー、ヘマーなどの巻き形状だけで選択すると効率が悪い縫製となったり、縫製不可能なことも起こり得ます。

#### 1 巻き具の取り付け方向による選択

巻き具アタッチメント類については、その取り付け方向によって四つに分類する事が出来ますが、縫いの方向は縫製工程上、大事な要素の一つです。

縫製する素材の種類と形状などにより適切なものを選択します(図7)。

(1)上から入る:特にテープ付け工程に多く使用し、押えに取り付けて使用する事が多い

メリット

カーブ縫いが出来る

ベツ面が広く活用出来る

デメリット

サイズの大きい巻き具を取り付けると、押えが重くなる

(2)横から入る:アングルパインダー、またはカノコラッパ等と呼ばれ、針落ち付近ではほぼ直角に縫う巻き具です。

メリット

バイヤステープのように伸縮性のあるテープに対応します。

アウトカーブ、インカーブの縫いが可能です。

デメリット

伸縮性の無いテープ(縦目テープ)には使用出来ません。

(3)手前から入る:手前よりミシンの送り方向と同じ方向にテープが供給されるタイプの巻き具です。

メリット

ビニールテープ、レザーテープのように伸縮性のないテープに適した方向です。

デメリット

直線縫い専門となりカーブ縫いが出来ません。

(4)斜めから入る:このラッパは(2)と(3)の中間のタイプです。

メリット

伸縮性のない(縦目テープ)(ビニール系テープ)でも、ある程度アウトカーブ、インカーブの縫いが可能です。

デメリット

小さなカーブ縫いは出来ません。

#### 2 素材、縫製補助材料などの縫製条件による選択

アタッチメントを利用した縫製の場合生地特性や、縫製の形態、利用する補助材料の違い.....などを確認して、1で述べた方向性やアタッチメントとミシンの組み合わせを設定します。チェックポイントは以下のような点です。

(1)生地特性は、

薄物か、中厚か、厚物か特殊な物か、伸縮性はあるかないか

生地の腰があるかないか、織り込みはどうか、化繊、天然か

(2)縫製箇所は、

地縫か、飾り縫か、直線縫か、(内カーブか外カーブか)、

平縫か、段縫の枚数はどうか、定尺縫か、エンドレス(筒縫)か

(3)縫製補助材料は、

テープを使用するかしないか

テープの種類、テープの幅は何mmか

芯紐を使用するかしないか、太さは何mmか、硬さはどうか

その他ファスナーや飾りピース等のものを使用するかどうか

などがチェックポイントになります。

図7

